Nestlé in society

共通価値の創造と2014年私たちのコミットメント

日本での取り組み

約85万人

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」は、2011年の開始からこれまでにのべ約5,000校から申し込みがあり、約85万人の児童に教材を提供しました。

47カ所

「こうべ 元気! いきいき!! プロジェクト」「介護予防カフェ」は神戸市内の47カ所で実施されています(2015年6月時点)。

−24%

自社工場の製造量は2004年から2014年までに109%増加しましたが、同時期に総水使用量を16%、総排水量を24%削減しました。

共通価値の創造
日本での取り組み

920トン

2014年は製造量が増加しましたが、包装材料の形状変更により、920トンの軽量化を達成しました。

20%

女性管理職の割合を2020年に20%まで引き上げる目標を掲げています。

130名以上

これまでにのべ130名以上の男性社員が育児休業制度を利用しています。

トップメッセージ

ネスレは、世界で栄養・健康・ウエルネスのリーディング企業であり続けることを目指しています。スイスでの創業の原点は、栄養不足による乳幼児の死亡率の高さに心を痛めた創業者アンリ・ネスレが開発した乳児用乳製品です。1866年の創業以来、およそ150年間にわたり、株主に優れた価値を生み出すと共に、社会のために価値を創造するというネスレの基本的な戦略は変わっていません。

社員が順守すべき基本的な価値観や諸原則をまとめた「ネスレの経営に関する諸原則」の中には、共通価値の創造(Creating Shared Value＝CSV)が事業展開の基本であることが明記されています。日々の業務の中でかかわるさまざまなステークホルダーの皆さまにとっての価値を創造するために、できることを考え実践することが、社員一人ひとりの責務であり誇りでもあります。

1913年に日本で創業したネスレ日本は、おかげさまで2013年に100周年を迎えました。ネスレ日本は、ネスレの「先進国モデル」として製品、サービス、そしてビジネスモデルでのイノベーションを通じて、すべてのお客さまのために価値を創造していきます。グローバル企業としての強みと100年以上にわたる日本での事業経験を最大限に生かしつつ、超高齢社会に突入した日本で、皆さまの健康的なライフスタイルを支援し、クオリティ オブ ライフの向上に努めてまいります。そして、私たちのお客さまをはじめとするすべてのステークホルダーにとって、最も信頼される企業であるために全力を尽くしてまいります。

ネスレ日本株式会社　代表取締役社長兼CEO
高岡 浩三

栄養

ネスレは、アンリ・ネスレが乳児用乳製品を開発し、子どもの命を救って以来今日まで、栄養・健康・ウエルネスに焦点を当てた事業戦略を展開してきました。
科学的な根拠に基づいて、おいしくて栄養的価値があり、かつ環境影響ができるだけ少ない食品、飲料を提供するという大目標を掲げ、食品および食生活によるクオリティ オブ ライフ(生活の質)の向上を目指しています。また、栄養に関して明確で責任ある情報を発信し、消費者の皆さまの知識や理解に基づく食生活を支援しています。

私たちのコミットメント

協力を通じて栄養と健康に関する研究で業界をけん引

ネスレ日本の視点

ネスレは、5,000人以上を擁する私的機関としては世界最大の栄養研究のネットワークを有し、その中心的存在であるスイスのネスレリサーチセンターをはじめ、世界34カ所に研究開発センターがあります。

2009年には全世界の製品に刷新とイノベーションをもたらす科学技術を提供することを目的としてネスレ リサーチ東京が設立され、健康栄養分野における最先端の研究機関と共同研究を行い、イノベーションの発掘を中心に活動しています。

また、共同研究のほか、栄養と健康の関連についてより理解を深める取り組みとして、2011年から「食と生命のサイエンス・フォーラム」を企画・実施しています。2014年11月には、東京大学総括プロジェクト機構総括寄付講座「食と生命」、ネスレ栄養科学会議、ネスレ リサーチ東京の共同主催による「第4回食と生命のサイエンス・フォーラム:子どもの肥満と食育〜広がる健康対策の成果をたどる〜」が開催され、大学、教育専門家、保健福祉センター、栄養士、医療関係者、一般企業や報道関係者などから200名を超える方々にご参加いただきました。

ネスレ栄養科学会議は、日本の栄養科学の進展および科学的な栄養関連と健康情報の普及を目的として設立され、栄養科学の発展に寄与する活動を行っています。研究者を支援するための研究助成や論文賞の贈呈に加え、健康と栄養に関するさまざまなテーマで講演会の開催、また国内外の研究者による書籍の出版などが主な活動です。ネスレ栄養科学会議の前身であるネスレ科学振興会を設立した1993年以来、20年以上の実績があります。

2014年は7件の研究助成、若手研究者3名に論文賞を贈呈し、第68回日本栄養・食糧学会大会においてサテライトシンポジウム「栄養と肥満」を開催しました。

私たちのコミットメント

子ども向けにデザインされた栄養製品を提供

ネスレ日本の視点

「ネスレ ミロ」は、世界30カ国以上で販売されています。優れた栄養価を持った大麦の発芽期の成長力を取り込んだ豊富な栄養と、おいしさを兼ね備えた自然の恵みの麦芽飲料「ミロ」は、時代に合わせて風味や栄養のバランスに少しずつ改良を重ねながら、子どもたちをサポートし続けています。

「ネスレ ミロ朝勝つ!教室」

ネスレ日本では楽しみながら、すぐに役立つ栄養情報や食生活の楽しいヒントを提供する出張料理教室「ネスレ ウエルネスキッチン」(2コース)を開催しています。皆さまの関心が高い、朝の栄養やバランス朝食をテーマにした食育講座と、それに基づきネスレ製品を使って料理体験をする「ネスレ ミロ朝勝つ!教室」、またコーヒーの豆知識やその楽しみ方をご提案する「ネスカフェ コーヒー教室」で、2014年には、全国で約130教室を開催、参加者総数は約5,000人となりました。

私たちのコミットメント

すべてのネスレ製品のラベルに栄養情報とアドバイスを記載

ネスレ日本の視点

お客さまが賢く食品を選択するためには、わかりやすく実用的な栄養・健康関連の情報を提供する食品表示が不可欠です。ネスレは、2005年に「ネスレ ニュートリショナルコンパス」を導入、製品に含まれる栄養素や栄養価、バランスの良い食生活のヒントなどについて情報を提供しています。2013年には、製品パッケージに記載されているQRコードから、詳しい製品の栄養や健康情報、企業情報にアクセスできる新サービスも一部製品で開始しました。

「カロリーガイド表示」は、製品1食分（1包装分など）あたりのエネルギー（カロリー）と、1日の目安のエネルギーに対してそれが占める割合を一目でわかるように表したものです。お客さまの健康的な生活を支える食品選びの参考となるよう、多くのネスレ製品がパッケージ正面で「カロリーガイド表示」を行っています。（栄養素等表示基準値は、1日あたりの摂取目安量を表示するための基準で、日本人の1日の目安のエネルギーは2,100kcalとされています。）

私たちのコミットメント

健康的な食生活とライフスタイル、運動を推進

ネスレ日本の視点

2013年、ネスレ日本は「こうべ 元気! いきいき!! プロジェクト」の連携協定を兵庫県神戸市と締結しました。栄養や健康に関するノウハウを生かし、高齢者のクオリティ オブ ライフの向上に貢献しています。

取り組みの一つが、「介護予防カフェ」です。カフェまで少し歩き、楽しく語らう－そんな時間が元気でいきいきとした生活を過ごすための介護予防につながります。ネスレは、この「介護予防カフェ」に「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」などを提供し、「ネスカフェ」を楽しみながら語らう集いの場づくりを応援しています。また、ネスレの派遣する講師による介護予防教室も開催、栄養についての講演や自宅で簡単にできるエクササイズなども紹介しています。

介護予防のために企業と地方自治体が連携するこのプロジェクトは、全国でも先進的な取り組みです。ネスレは、このプロジェクトを通じて、栄養と運動の大切さについて広く高齢者の方々を啓発し、豊かな長寿社会の実現を目指しています。

「こうべ 元気! いきいき!!プロジェクト」

「介護予防カフェ」は、神戸市内の47カ所で実施されています（2015年6月時点）。

栄養

世界中の学齢期の子どもたちの栄養・健康・ウエルネスに関する知識と実践する力の向上を目指して、ネスレは2009年に子どもの教育プログラム、「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」をスタートしました。

日本でも、2011年に小学校低学年を対象とした「からだづくり」支援プログラムを開始、2012年には小学校高学年にも対応できるプログラムの充実を図りました。

2014年は約1,400校から申し込みがあり、約26万部の教材を配布しました。プログラム開始から累計すると、のべ約5,000校の小学校から申し込みがあり、約85万人の児童に教材を提供しました。

プログラムは、からだと食べ物の関係を学ぶ「栄養プログラム」と、そこで学んだ内容も復習できるオリジナルの「ヘルシーキッズ鬼ごっこ」などでからだを動かす楽しさを体験する「運動プログラム」から構成されています。

2014年度からは、「一人でも室内の狭いスペースでもできる」をコンセプトに開発された新しい運動プログラム「ヘルシーキッズBRTプログラム」の提供も開始しました。また、ネスレ日本の工場でも、地域の小学生や社員の親子を対象に「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」のイベントを開催しています。

親子で楽しみながら正しい栄養知識を学ぶことができるよう、「ネスレ キッズチャレンジ」サイトでは、健康や食育に関する情報を提供しています。2014年12月には、骨とカルシウムをテーマにしたデジタル絵本「おわんくんの“骨”ってなぁに?」を制作しました。

http://www.nestle.co.jp/nhw/child

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」

学齢期の子どもたちの栄養・健康・ウエルネスに関する知識と実践する力の向上を目指しています。

http://www.ugoku-taberu.com

私たちのコミットメント

適切な栄養摂取と食事のために、教育プログラムを実施

ネスレ日本の視点

ネスレ ヘルスサイエンスは、一般のお客さまや医療、介護従事者のさまざまなニーズに応える栄養補助食品を提供しています。現在、全国約9,000の医療機関や介護施設に対して栄養ケアに関する情報を提供、また、医療と介護現場における栄養の力、栄養の役割について科学的根拠(エビデンス)をもとにした提案を行うために、全国の医療および介護従事者と共に研究も進めています。

さらに、ネスレ ヘルスサイエンスは、医療と介護従事者向けに栄養評価(アセスメント)ツールの提供も行っています。高齢者の栄養状態を簡易に評価する「MNA®(Mini Nutritional Assessment)」や、嚥下(食べ物や飲み物の飲み込み)状態を評価する「EAT-10(イートテン)」など、日本だけでなく世界各国で活用されている栄養評価ツールの国内での啓発と普及に積極的に取り組んでいます。

ステークホルダーの声

福島県は児童数減少により各地で学校統合が進められていますが、本校も例外ではありません。3年前に大越地区の3校の統合が完了、本校が誕生しました。そのため、スクールバスでの通学児童数は全校生の約3分の1に上っています。平成26年度からは、校舎や体育館の全面改築工事が進められ、校庭がほとんど使えない状況となりました。「限られたスペースでの運動量確保」「スクールバス通学による肥満の防止」が本校での喫緊の課題となりました。そのような折りから、1年間を通してカリキュラムの一部として「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」に継続的に取り組んでまいりました。外部講師による特別授業は新しい発見と共に、子どもたちの「からだ」に対する興味関心を高めることにつながりました。受け身になりがちな子どもたちの行動を能動的に切り替えるきっかけともなり、学習全般によりよい影響を及ぼしております。

田村市立大越小学校 校長　遠藤 さとみ 氏

農業・地域開発と責任ある調達

農産原材料や労働力を得ているその地域が、安定し健全であることは、ネスレの事業の成長や株主にとっての価値を高めるためにも不可欠なものです。農業・地域開発を通じて地元へ雇用を提供し、持続可能な生産方法を奨励することにより、私たちは、原材料の供給と品質を確保すると共に、地域経済と農村の人々の生活水準に長期的にプラスの影響を与えることを目指しています。

私たちのコミットメント

「ネスレ カカオプラン」を実施

ネスレ日本の視点

ネスレが2009年より開始した「ネスレ カカオプラン」は、品質に見合った価格での買い取りだけではなく、病気に強く、良質なカカオがたくさん実る苗木の提供や、カカオ栽培に関する知識と技術を提供する勉強会の開催、さらには水環境や道路の整備、学校の建設などを通じて、カカオ農家が健やかに生活できるよう、カカオ生産国を支援しています。グローバルパート20ページもご参照ください。

ネスレ日本は、「ネスレ カカオプラン」の本格的な取り組みを2014年から開始しました。2015年、ネスレ日本が国内で製造、販売するすべての「キットカット」、「ネスレ エアロ」、「ネスレ クランチ」に持続可能な農業のための国際的な認証プログラムであるUTZ認証ラベル※が導入されます。

また、「ネスレ カカオプラン インターンシップ」を実施しました。これは、これからの社会に求められるグローバルな視点とリーダーシップを兼ね備えた人材の発掘と育成を目的とした採用プログラムです。2015年2月、10名の学生が「カカオプラン」を実施しているカカオ生産国エクアドルへ赴き、机上では学べない経験を得ました。

ステークホルダーの声

世界のさまざまな国々で、「ネスレ カカオプラン」のパートナーとして活動できることを私たちは誇りに感じています。ネスレは、2009年のUTZ Certifiedカカオプログラム立ち上げの重要なメンバーであり、以後、「カカオプラン」を通じて私たちのパートナーシップは世界中に拡大しています。また、「キットカット」は日本で初めてUTZに取り組んだチョコレートブランドでもあります。
私たちの最終目標はサステナブルな農業が当たり前となることで、ネスレに代表される主要メーカーの真剣な取り組みおよび継続的なパートナーシップなくして、この目標を達成することは不可能だと考えています。

UTZ Certified アジア地域ビジネス開発担当マネジャー
オルティスリベラ 美由紀 氏

ステークホルダーの声

エクアドルの実情を理解し、カカオ栽培について知識だけではない学びや気付きを得ることができました。また、現地で人々の生活にネスレ製品が深く浸透し、ネスレ エクアドルの人々が誇りとやりがいをもって仕事をする姿を見て、ネスレのブランド力を改めて認識しました。貴重な機会をネスレからいただいたことに感謝します。

「カカオプラン インターンシップ」に参加した　東京大学大学院　上中 彩慧 さん

※UTZ認証:適正な農業実践と農園管理、安全で健全な労働条件、環境保護、児童労働撤廃への取り組みの面で基準が設けられており、すべての基準が満たされて初めて認証されます。

水資源

企業としてネスレが長期にわたって成功するかどうかは、私たちの日々の事業活動に必要であり、生産者や消費者など、すべてのステークホルダーの生活や仕事に不可欠な水資源が持続的に確保できるかにかかっています。世界中のお客さまに高品質な製品をお届けするため、ネスレの工場と施設では効率的な水使用のため、厳格な基準を設けています。

私たちのコミットメント

事業全体における水の利用効率とサステナビリティの向上に向けた取り組み

ネスレ日本の視点

姫路工場（兵庫県）、島田工場（静岡県）のコーヒー製造工程で導入されている「ノンフロン二元（二酸化炭素／アンモニア）冷凍装置」は節水効果が高く、設置の翌年には冷凍機における水の使用量は、両工場でそれぞれ19%減となり、現在もその水準を継続しています。

2012年6月に完成した霞ヶ浦工場（茨城県）のボトルコーヒー製造ラインは、一般的なUHT・ホットパック充填より水の使用量が少なくて済む無菌充填プロセスを採用しています。最新鋭の機械を導入したことで、ネスレが従来採用してきた無菌充填プロセスよりさらに1日あたり約240トンの削減が可能となりました。この量は平均的な世帯が使用する水の量に換算すると、約330世帯分に相当します。

また、2008年から開始した冷却塔のオペレーションの最適化で、生産量が増加したにもかかわらず、2013年には3工場の水の使用量を2008年と比較して6%減少、現在もその水準を継続しています。

霞ヶ浦工場の無菌充填プロセス

霞ヶ浦工場（茨城県）のボトルコーヒー製造ラインは、一般的なUHT・ホットパック充填より水の使用量が少なくて済む無菌充填プロセスを採用しています。

私たちのコミットメント

適切な排水処理

ネスレ日本の視点

島田工場では、2004年に約3億円を投じて、世界30カ所以上のネスレのコーヒー工場の中で最初にメタン発酵排水処理システムを導入しました。この排水処理は嫌気性微生物（メタン菌）の効率的な使用により高濃度の排水の中の有機物の分解処理を行い、排水を法規制より厳しい自主規制の清浄度まで排水処理を行います。この排水処理は蒸気などのエネルギーを必要としないため、工場でのエネルギー使用量が大幅に削減され、約12％のCO_2排出量削減につながりました。さらに2005年からは、このメタン発酵排水処理システムから発生するバイオガス（主にメタンガス）をボイラーの補助燃料として利用しており、これによる省エネ効果は原油換算で毎時約70リットルとなっています。

私たちのコミットメント

水資源の保全意識を向上

ネスレ日本の視点

プロジェクトWET(Water Education for Teachers) は教育ツールを用いて世界中の児童の水問題に対する意識の向上を図る国際的な取り組みです。ネスレ ウォーターズ（本部フランス）は1992年からメインスポンサーとしてその活動をグローバルに支援してきました。

日本では、このプロジェクトは公益財団法人河川財団が推進しており、ネスレ日本は、2012年から工場を中心に活動を始めています。WETのツールを使って子どもたちを教育することができる「エデュケーター」という資格を持つスタッフが社内に12名おり、工場近隣の小学生を対象に、水や水資源に対する知識、理解、責任感を深めてもらうよう取り組んでいます。

ステークホルダーの声

本校の校区は、多くの自然に囲まれ、田園風景の広がる美しい地域です。児童は自然の中でいきいきと生活しています。しかし、川やため池で遊ぶことは危険が伴うという理由から、生きものと触れ合う経験は少ないようです。学校や地域では、これまでもため池や生きものについて児童に学んでもらう機会として、「みんなのため池教室」に取り組んできましたが、その一環として、「プロジェクトWET」の活動を紹介いただき、本校4年生児童が取り組みました。地球上の私たちがいかに水に囲まれ、水を利用して暮らしているかを、児童にわかりやすく教えていただき、ため池の役割についても学ぶことができました。また、校区のため池で網とバケツで水生生物を採取し、大きな鯉や蛙に驚きながら楽しんで活動しました。これらの経験を通して、水に興味をもち大切にしていこうとする思いが児童に生まれ、大変有意義な機会となりました。

姫路市立香呂小学校教諭　藤岡 宏旨 氏

環境サステナビリティ

ネスレは現在、そして未来のため、環境と貴重な資源の保全に努めています。自社工場など、私たち自身の事業運営の効率化を図ると共に、パートナー企業や団体と協力して、バリューチェーン全体でのネスレ製品の環境パフォーマンスの向上に向け、継続的に取り組んでいます。

私たちのコミットメント

事業における資源の利用効率を改善

ネスレ日本の視点

ネスレ日本の自社工場での生産量は2004年から2014年までに109%増加していますが、同期間に、エネルギー使用量を20%、温室効果ガス排出量を9%、総水使用量を16%、そして総排水量を24%、それぞれ削減しました。

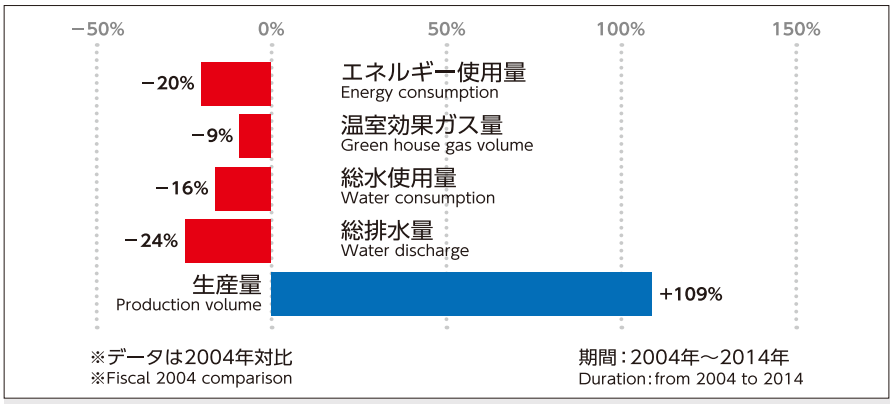
姫路、島田工場で導入しているコージェネレーションシステムは、熱電併給とも呼ばれ、発電時に発生した排熱のエネルギーを有効利用することで総合エネルギー効率を高めるエネルギー供給システムです。

姫路工場では、LNG（液化天然ガス）をタンクローリー輸送して工場内のLNGサテライト基地に備蓄する燃料供給方式を導入し、最大92%という高い総合エネルギー効率（一般的には70～80%）を達成。液化天然ガスは重油に比べ、大気汚染につながる窒素酸化物(NOx) や硫黄酸化物（SOx）、また地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を低減することができます。テクノロジーの先進性と先導性が高く評価され、第9回新エネ大賞（新エネルギー財団）を受賞しました。この新規システムにより既存設備と比較して、約19%の省エネと約30%のCO_2排出削減を達成しています。

また、島田工場では、コージェネレーションシステムのみならず、脱臭装置、エアヒーターなど他の燃焼施設に至るまで、従来の重油燃料から環境負荷の少ない都市ガスへの転換が実現されています。霞ヶ浦工場においても同様に天然ガスへの転換が進み、2014年に100%の転換を果たしました。

さらに、姫路工場と島田工場では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。この流動床ボイラーによるコーヒーかす熱エネルギー回収システムは、1983年に日本で初めて島田工場に導入され、1986年には姫路工場にも導入されました。

姫路工場では、燃料による年間エネルギー使用量の約20%がこのコーヒーかす（バイオマス）サーマルリサイクルで賄われており、このシステムは先導的なバイオマス活用の取り組みとして兵庫県の「ひょうごバイオマスecoモデル」第31号に登録されました。また、流動床ボイラーをはじめとする一連の取り組みで、島田工場は2013年、経済産業省が認定する、次世代エネルギーパーク計画の一環である静岡県の「ふじのくにしずおか次世代エネルギーパーク計画」の協力施設となっています。



製造における環境パフォーマンスの改善

ネスレ日本の自社工場での生産量は2004年から2014年までに109%増加していますが、同期間に、エネルギー使用量を20%、温室効果ガス排出量を9%、総水使用量を16%、そして総排水量を24%、それぞれ削減しました。

廃棄物ゼロを目指し、グローバルでの取り組みの一環として、ネスレ日本の工場では製造過程での廃棄物はもとより、工場から出る一般ゴミの減量にも配慮しています。

島田工場では、2010年から、コーヒー製品の製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動を続けています。コーヒーかすから醸成された培養土は、地元島田市にある「ばらの丘公園」や市内の小中学校へ寄贈されています。また、「キットカット」を製造する霞ヶ浦工場では、食物残さの全量飼料化に取り組んでいます。包装工程後に、チョコレートと包装材料を分離する機械を新たに導入、分別と資源活用を効率化したことにより、霞ヶ浦工場は2014年、廃棄物ゼロを達成しました。なお、ウエハースなどの食物残さは、近郊のダチョウ牧場や養豚場、牛牧場などへ運ばれ、動物の飼料として利用されています。

製造現場だけでなく、ネスレは全社でオフィスのペーパーレス化を推進しており、書類の電子化、業務フローの見直しなど、積極的に取り組みを進めています。この取り組みは単に紙を削減するだけでなく、副次的には仕事の効率化を進める効果もあります。2014年には、2011年と比較して全社の紙の使用量を57%削減しました。特に、神戸本社の紙の使用量は71%削減しました。

環境マネジメントシステムの取得

日本国内の3工場すべてにおいて、2008年12月までに、ISO14001（環境マネジメントシステム）に加えてISO22000（品質マネジメントシステム）の国際規格認証を取得しました。これらの国際規格認証については、認証取得後も第三者機関による定期審査や更新審査が実施され、厳しい要求事項に継続して適合していること、さらなる改善が行われていることが確認されています。

私たちのコミットメント

製品が環境に与える影響の評価と最適化

ネスレ日本の視点

ネスレ日本は、地球温暖化の原因の一つとされる二酸化炭素の排出量において、トラック輸送に比較し9分の1と環境負荷の少ない鉄道輸送を利用するなど、モーダルシフト（大量輸送できる鉄道輸送と海運輸送に転換）を推進しています。

社内物流では、一部製品を対象に2009年に鉄道輸送、2010年に国内3工場から北海道向けの配送で海上輸送を開始し、それぞれ「エコレールマーク」（現在は「企業認定」を取得）、「エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者」の認定を受けました。

社外（顧客向け）物流の分野でも、2010年から鉄道利用を開始し、2012年から本格的にモーダルシフトを推進しています。この取り組みは、国の環境事業である平成25年度「モーダルシフト等推進事業」として認定されたことに加え、国土交通省と経済産業省が、産業界と共同で開催している平成26年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰において、国土交通省物流審議官表彰を受賞いたしました。

2014年6月には、「モーダルシフトの取り組みに関する宣言と確認」をJR貨物グループと共同で作成し、鉄道への転換を積極的に推進することで合意、確認しました。

ネスレ日本は、今後もさらに環境負荷の少ない物流を推進していきます。

モーダルシフトの推進

ネスレ日本は本格的なモーダルシフトを推進しています。写真は、全国にネスレ製品を配送する専用のデザインコンテナで、どちらも温度管理が可能な定温配送設計コンテナです。

上:「ネスカフェ」コンテナ（2014年12月、大手小売企業様との共同による専用列車 出発式典）

下:「キットカット」コンテナ（2015年4月、岩手県三陸鉄道の全線運行再開1周年記念事業の一環で宮古駅前に登場）

環境サステナビリティ

私たちのコミットメント

ネスレ製品パッケージの環境パフォーマンスを改善

ネスレ日本の視点

2014年、ネスレ日本グループは、包装材料の形状変更により920トンの軽量化を達成しました。削減を達成した主な分野は以下のとおりです。

- **紙包装材料：335トン**
- **ガラス容器：165.5トン**
- **プラスチック、ラミネートフィルム：48トン**
- **金属容器：372トン**

私たちのコミットメント

気候変動へのリーダーシップを提供

ネスレ日本の視点

ネスレが世界のあらゆる業界に先駆けて開発した「ノンフロン二元（二酸化炭素/アンモニア）冷凍装置」は、姫路工場と島田工場のコーヒー凍結工程に導入されています。二酸化炭素、アンモニアは共に自然冷媒で、システム内を循環し通常は大気に放出されないため、地球温暖化やオゾン層破壊への影響をほとんどなくすことができます。

ネスレは、「ネスカフェ ゴールドブレンド」などに使用されるフリーズドライコーヒーのプラントにおけるフロン冷媒全廃を目的に、15年がかりの脱フロン対策を推進してきました。モントリオール議定書のフロン撤廃の条約期限を5年前倒しにした世界的なネスレ グローバルイニシアチブを、日本ではさらに約5年前倒しで2013年に達成しました。

ステークホルダーの声

ネスレ日本が進めておられる「鉄道、フェリーを併用したモーダルシフト」は、2014年12月、国土交通省のグリーン物流表彰を受賞されました。これは、物流の効率化とCO_2排出削減を目的として、荷主と物流事業者のパートナーシップ（連携）によって進める優れた取り組みとして、グリーン物流パートナーシップ会議の審査を経て、物流審議官表彰に選定されたものです。環境保護に向けたモーダルシフトの推進は、国土交通省の重要な物流政策の一つであり、ネスレ日本のさらなる環境負荷低減への取り組みを心より期待しております。

国土交通省 物流審議官
羽尾 一郎 氏

ステークホルダーの声

日本の鉄道の正確性は世界に名を馳せており、貨物鉄道の定時発着率も世界に誇れるものです。私どもJR貨物は全国のネットワークを通じ、のべ地球5周分の距離を毎日走っています。貨物鉄道の特徴の一つは大量輸送です。10トン車換算でトラック65台分を一度に運び、CO_2排出量はトラックの9分の1、船の半分と最も環境に優しい輸送手段です。

物流は個々の企業、および国全体の大動脈ですが、最近はトラックドライバー不足の深刻化で、鉄道などへのモーダルシフトが重大な課題となっています。そうした中、ネスレ日本はいち早く物流改善や鉄道倍増計画を決定され、さらに「エコレールマーク」を取得されるなどモーダルシフトの牽引者として注目を集めています。JR貨物はその先見性とリーダーシップを高く評価し感謝申し上げると共に、今後も他業種との共同輸送のご提案などを含め、ご一緒に環境負荷の低減や社会貢献に努めてまいりたいと存じます。

日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）
代表取締役会長　石田 忠正 氏

人材、人権、コンプライアンス

ネスレは社員こそが成功の源と考えています。ネスレの社員は、尊敬を持って同僚に接し、責任を持って業務にあたることが求められます。ネスレの価値観と諸原則を共有できる有能で意欲的な人材を雇用し、育成と昇進に関しては公正に機会を提供します。個人のプライバシーを尊重すると共に、職場ではいかなるハラスメントや差別も許しません。

私たちのコミットメント

ネスレの全部門において全社員に同水準の基本的安全性と健康確保に必要な仕組みを整備

ネスレ日本の視点

OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）をネスレ日本の3工場で取得済です。連続無事故日数（休業災害が発生しない連続日数）をイントラネットに掲示し、各職場での安全に対する意識向上を呼びかけています。また人権と労働慣行、誠実な事業活動、安全衛生、環境、セキュリティーの5分野で外部の監査ネットワークをベースとしたネスレ独自のCAREプログラムが2007年からネスレ日本グループの全事業所で実施されています。

ネスレにおいてコンプライアンスとは「ネスレの経営に関する諸原則」を実践することであり、法令の順守は当然そこに含まれています。社員一人ひとりがこのことをより深く理解し、職場やステークホルダーの皆さまとのかかわりの中で自信を持って実践していくことを支援するため、コンプライアンス研修や意識啓発活動を実施しています。新入社員、2年目、3年目社員、新任係長と課長、部長等の研修プログラムでは、参加者は積極的に討議し、自らも組織としても、公正で誠実な行動をとることについて考え、意識を深めています。

私たちのコミットメント

男女比のバランスを改善

ネスレ日本の視点

さまざまな違いを持つ社員が集まった組織の方が新しい発想やイノベーションが生まれやすくなると考え、ネスレはダイバーシティの推進に取り組んでいます。男女比のバランス改善については、ネスレ日本グループでは、女性管理職の割合を2020年に20%まで引き上げるという目標を掲げています。

また、女性のキャリア継続や男性の育児参加を促すため、2012年4月に、霞ヶ浦工場に事業所内保育園「ねすれっこはうす」、2014年4月には、神戸本社内に託児ルーム「ネスレ キッズルーム」を開設しました。また、男女共に育児休業を最大10日間有給化すると共に、産前休暇、育児休業、介護休業対象者に1回の申請につき最長6カ月の在宅勤務を認める制度も2010年より設けています。これまでに130名以上の男性社員が育児休業制度を利用しています。また、育児休業者が円滑に職場に復帰できるよう職場復帰前セミナーも実施しています。

プラチナくるみん取得

ネスレは、次世代育成支援対策推進法に基づき策定した行動計画やその取り組みが認められ、2011年に「次世代認証マーク（通称:くるみん）」、そして、さらに高い水準で両立支援制度の導入や利用を行っている企業として、2015年6月に「特例認定マーク（愛称:プラチナくるみん）」を取得しました。

ダイバーシティの推進

2013年からは、ネスレグループ内の海外人事交流プログラムを開始。アフリカ、オーストラリア、ASEAN諸国で日本の社員が勤務し、日本は各国から社員を受け入れています。また、障がいを持つ方も職域を限定せず採用、さまざまな部署で活躍中です。

人材、人権、コンプライアンス

私たちのコミットメント

若年層に雇用機会を提供

ネスレ日本の視点

ネスレ日本は、多様な学生の採用を目的とした新しい方法として、インターンシップを重視した「ネスレパス」コースを2011年に導入しました。選考時期と方法を学生が選べ、何度でも挑戦することができる新しい通年採用選考プロセスです。

2012年3月には、アソシエイト（内定者）の主体的なキャリア形成を支援する「ネスレ アソシエイト制度」を導入しました。全世界の社員向けに導入しているキャリア形成プラン共有制度（PDG = Progress & Development Guide）の考えを基盤としたこの新制度により、アソシエイトが“ネスレ流”の育成に触れ、しっかりと入社までの準備をしてもらい、学生生活をより充実したものにできるよう支援します。

さらに、2015年には、「ネスカフェ アンバサダー インターンシップコース」を導入しました。イノベーティブなアイデアを創出し、そのアイデアを実現するリーダーシップを兼ね備えた人材の発掘と育成をするために従来のようなエントリーシートによる審査や適性検査は行わず、イノベーティブなアイデアやネスレのビジネスモデルに対する熱意に重きを置いて選考を行います。

「ネスレ カカオプラン インターンシップ」

これからの社会に求められるグローバルな視点とリーダーシップを兼ね備えた人材の発掘と育成を目的とした採用プログラムです。

私たちのコミットメント

栄養（NQ）に関する研修を社員に実施

ネスレ日本の視点

社員向けの栄養と健康教育として、2007年から世界のネスレで一斉に開始した「NQニュートリショントレーニング」は、2014年末時点で全世界の約31万人の従業員が受講し、51,000人が更新講座を受講しています。日本でも全社員への研修を完了しており、継続的に新しく入社した社員、マーケティングや開発関係者向けに研修を行っているほか、種々のツールで社員の栄養知識向上を図っています。

「NQニュートリション トレーニング」

社員向けの栄養と健康教育として、全社員が研修を受講しています。

ステークホルダーの声

僕は生後10カ月で、10万人に1人の難病といわれる脊髄性筋萎縮症だと診断されました。この病気は、筋肉を動かす神経に問題があり、徐々に筋肉が萎縮してしまうものです。僕が自力でできることは、指先をわずかに動かすことと「話す」ことだけ。しかし、「寝たきり」の生活を送っている僕だが、「僕だって働きたい」という気持ちを捨てることができませんでした。そこで、「働く場所がないなら自分たちで会社を起こそう」と、同じ難病を抱える幼馴染みを誘い、2人でウェブ制作会社「仙拓」を設立しました。

今回、ネスレ日本でアドバイザー業務を始めました。健常者と何ら変わりのない業務を与えてくれたのです。きっとネスレ日本なら、世の中の障がい者雇用を変えてくれるでしょう。

株式会社仙拓 代表取締役社長
佐藤 仙務 氏

重要課題

「重要課題」については、グローバルパート38ページを参照ください。

重要課題の評価

ネスレは、数年前から、グローバルな観点からネスレのビジネスとステークホルダーにとって最も重要な課題を特定し、継続的に再評価を実施しています。2015年、ネスレ日本株式会社として初めて、日本特有の課題や文脈を考慮した、ネスレ日本の重要課題の評価を実施しました。

ネスレ日本株式会社は、特定非営利活動法人 経済人コー円卓会議日本委員会と共に、社会的な視点から当社にとって重要と考えられる課題案件を49の課題に整理しました。

この49の課題に関して、専門的知見を持つステークホルダーの関心度合いと、ネスレ日本の事業への関連性および影響度合いを調査しました。その上で、ステークホルダーの関心およびネスレ日本に対する影響が大きいと考えられる26の重要課題を特定しました。詳細は、以下のマトリックスをご覧ください。

日本では、以下の項目に対して高い重要性が確認されました。

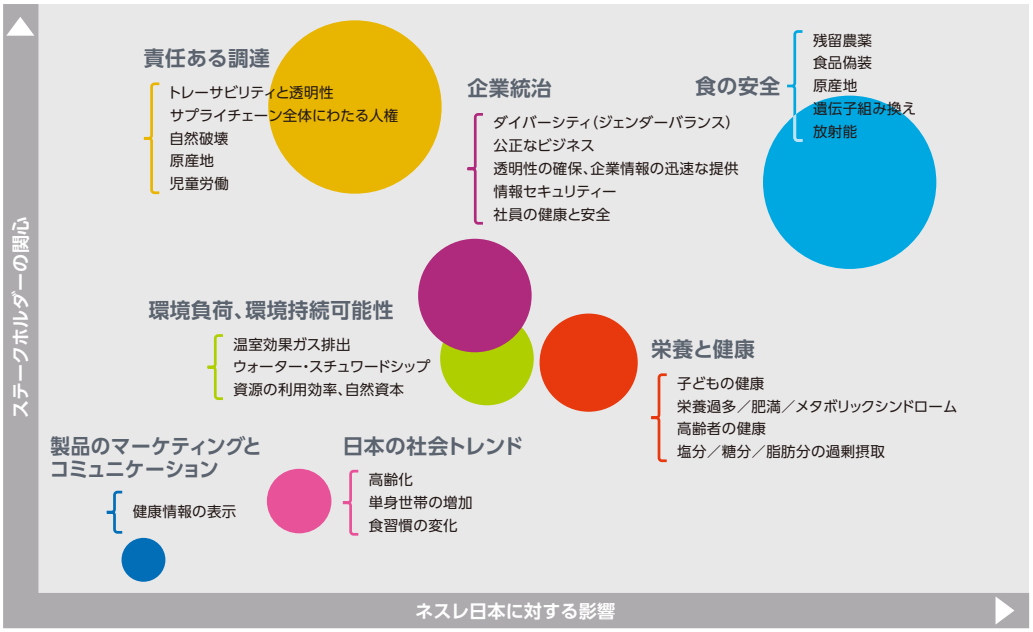
- 残留農薬、食品偽装、原産地における食の安全の確保、遺伝子組み換え、放射能などの食の安全
- 製品のマーケティングおよびコミュニケーションにおける健康に関する情報の表示
- 高齢化、高齢者の健康、単身世帯の増加、食習慣の変化
- 情報セキュリティー、透明性の確保、企業情報の迅速な提供

グローバルと同じく日本においても、以下の項目に対して高い重要性が確認されました。(グローバルの情報については、グローバルパート38ページを参照ください)

- トレーサビリティと透明性
- 資源の利用効率、水資源の適切な管理(ウォーター・スチュワードシップ)
- 子どもの健康、過剰栄養
- 女性の権利向上、ダイバーシティ(ジェンダーバランス)
- 社員の安全と健康

今後は、各課題がネスレ日本のバリューチェーンに及ぼす影響を評価すると共に、ステークホルダーとの直接の対話を通じて、重要と評価された課題への対応を進めてまいります。

2015 年 ネスレ日本の重要課題マトリックス



- **(責任ある調達)** 原産地 = 原産地において生産者と労働者が安全な生産、製造、労働環境下に置かれているか。
- **(食の安全)** 原産地 = 原産地において消費者に安全な体制で生産されているか、安全性に配慮された食の生産が行われているか。